

○有田正博・津田緩子・中村恵子・榎原絵理・安藤良子・麻生千織・帆鷲
秀一郎・河野稔広・八木まゆみ・松木貴彦・鱒見進一
九歯大・欠損再構築

目的：従来型の歯科医学教育に対する様々な問題点が指摘され、ここ数年で歯科医学教育は著しく変化している。我々の担当する欠損補綴Ⅱ（部分床義歯学，3年次生，後期）においては、到達目標，学習方略，評価方法を毎年見直し，学生のニーズに応える教育を目指している。平成17年度は，講義担当教員の評価とは別に，実習内容および実習指導教員およびティーチングアシスタントである大学院生の学生評価を実施した。アンケート結果から，実習の内容およびその指導方法について考察を行った。

方法：平成17年度の3年次生（95名）を対象に，シラバスに従って授業および実習を行い，最終日に学生アンケート調査を実施した。学生アンケートは独自で作成したもので，実習内容に対する評価項目とインストラクターの指導方法に対する評価項目で構成した。評価されたインストラクターは9名で，それぞれの担当した学生（約10名）が評価した。アンケートはすべての学生から回収し，集計した。

結果と考察：実習内容や指導方法については，多くの項目で学生の高い評価（8割）を得た。ただし，実習内容に対する時間配分については他の項目よりも評価が低く（5割），実習の難易度と所要時間に考慮が必要であった。各インストラクターに対する評価を比較すると，その評価から指導の特徴が明確となり，各々の指導方法に対して適切なフィードバックを行う上で有益な資料となりうると思われた。

新規遺伝子増幅法（LAMP法）による *Prevotella intermedia*
および *Prevotella nigrescens* の迅速検出

○正清義朗・吉田明弘・永島志織・安細敏弘・竹原直道
九歯大・フロンティア

【目的】 *Prevotella intermedia* と *Prevotella nigrescens* は、歯周炎の原因菌として注目されている。今回、我々は新規遺伝子増幅法である Loop-mediated Isothermal Amplification (LAMP)法を用いてこれらの細菌の迅速検出系を開発した。【方法】これらの細菌は類縁菌種であるため、先ず subtractive hybridization 法を用いて各染色体 DNA 上の特異領域を決定した。これらの遺伝情報を基に Primer Explorer Ver.3.0 (富士通システムソリューションズ、東京)を用いてプライマーを設計し、プライマー、*Bst* DNA ポリメラーゼと染色体 DNA を含む反応混合物を 68°C の等温で増幅し、これらの検出系の特異性と感度を評価した。【結果】 *P. intermedia* および *P. nigrescens* の特異プライマーはそれぞれの染色体 DNA を特異的に増幅し、非特異的な増幅は認められなかった。また、唾液や歯肉溝浸出液等の臨床検体についても反応阻害はなく、応用可能であった。更に増幅産物であるピロリン酸マグネシウムの測定により定量的解析も可能であった。【考察】以上の結果により本検出系が特異的かつ高感度な方法であることが示され、*Prevotella* 属細菌の鑑別および迅速検出と歯周炎の迅速診断に有用であることが示唆された。